

K O Σ M O Σ

Vol. 10, No. 3 (No.31)1976. 2. 28

1976年に想う

高橋 誉文

本学の図書館も新図書館開館以来、すでに4年余の歳月を経過しました。完成当時1年生であった学生の方々もすでに昨年3月卒業されて実社会に出ていっています。図書館も学生と同じように、何人かの職員の方々も退職され、又新たに採用されたり、その動きも少なくありませんでした。旧図書館から新図書館への移行によって図書館の環境もすっかりかわり、旧図書館当時から新図書館に涉り利用された卒業生の方々、退職なされた職員の方々には一つの忘れ得ないものが心のどこかに残されていると思います。

さて、大学も年々新学生を迎え、従って図書館の利用者の数も逐年増加しつつあることは喜ぶべきことと思います。しかしながら図書館には諸々の問題がかまえてられています。例えば、組織の問題、資料収集とその運用の問題、視聴覚に関する問題等々、その他、他図書館との相互協力に係わる問題等があります。就中、図書館の本来の機能は利用者へのサービスであり、これを原点として図書館の管理・運営が考えられなければならないと思います。広義の図書館サービスは様々な内容を包含しておりますが教育と研究という役割をもつ大学の図書館はその運用をどのように展開して行くか、が重要な課題でありましょう。その一つとして、先づ利用者に対するサービスはどうあるべきか、又、それを如何に実施して行くべきかでありましょう。情報量も逐年増し、その質も変わりつつある今日、私達も現状に満足することなく、利用者へのサービスを果すため常に研鑽に努め、一步でも利用者より先を歩もうと心掛けて居ります。

現在、図書館の相互協力の意も含めて、蔵書目録の作成を行い、和文篇を完了したことは周知の通りであります。なほ欧文篇に取り組み、本年度中第4巻完成を目途として進行中であります。なお、今後も予定の全巻を一刻も早く完成させたいと念じて居ります。

1976年初頭にあたり利用者の方々と共によりよき図書館の創造を願ひ、一層のご協力をお願いする次第であります。 (副館長)

特集・図書館に
望む 2~6
四君の寄稿に
沿っての随想 7
春季閲覧業務取扱に
ついてのお知らせ 7
大学図書館業務報告
8~11
日誌 12

特集・図書館に望む

図書館ニュースを発行する毎に、図書館に対して利用者（あまり利用されない人も）がどんな関心を持っているのか、又、関心を示す余地もないほど駄目な図書館なのか等々、疑問を持ちつつ号を重ねてまいりましたが、今回、利用者（特に学生）の声の場として特集を企画いたしました。尚、投書の回答の内、一部特集の方にくみ入れさせていただきました。

（投稿Ⅰ）

国文学科3年

小田 一見

私は3年になってから、必要に迫られて図書館を利用することが多くなりました。1、2年の時も時折利用することはありましたが、クラブ活動をしているので普段はあまり暇もないので、利用するのはもっぱらシーズン・オフのときぐらいでした。3年ともなると、演習の発表とか、やたらレポートが増えるのでそのため利用する機会が増えました。初めのころは、慣れていないからでしょうか、何となく違和感を感じ、行きづらいこともありました。本を借りるのにカードを作るときも、方法がわからないのでためらいを感じました。幸い私の場合、図書館の職員の方を知っている人がいらっしまったので、親切に教えて下さいましたので助かりました。

私は参考・雑誌室を愛用しています。そこは何となく開放感があり親しみを感じます。中にはうるさいという人もいるかもしれませんが、黙ってしかめっ面で勉強するばかりがよいとは言えないと思います。本校はキャンパスがせまいので、友人との交流の場所が少ないので、そういう意味でも図書館は大事な役割を果しているように感じられます。もちろん、勉学のための場所であることはいうまでもないことです。

図書館の良さをもっと多くの人に知ってもらうためにも、もっとアピールをして欲しいと思います。

（投稿Ⅱ）

図書館利用規則改正についての提案

利用者 J

1 提案事由

第3閲覧室を談話室を兼ねたものとし、その他の閲覧室における話し合いを厳禁すること。かつ、その旨の明確な掲示をすること。

2 その理由

本学の図書館の設備の優秀なものであることは我々の自負するところである。しかし普段はもとより、特に試験期間中における閲覧室はひそひそ話し（時おり、討論）の場と化し、利用に耐えないときがある。

共同研究は我々の学問の探究に甚しき便益を寄与するものである。図書館内にも、そのための場所があってもよい。幸いにも第3閲覧室はそのために適当な場所である。

現在すでに、そのようにされているようなフンもないではないが、それにしては第3閲覧室のほかでの（閲覧室）話しをする者どもが多い。

さもなくば、図書館は未来なきものである。

（係より）

元来、大学図書館には二つの相補的、基本的な使命である（教育）と（研究）の進展に、奉仕すべき任務をもっています。特に教育のための学習図書館としての役割と情報量の激増する学問の進歩に呼応し、研究図書館の情報センターとしての役割を持っており、一般図書館と専門図書館の要素をかね備えたものでなければならないといわれております。

本学図書館もこのような考えをもとに、教育、研究の中心となることを目指して、昭和49年9月に新築されました。本館の特色は従来の図書館にくらべて、よりアカデミックな図書館として設計され、建物全体に数々の工夫、改善が行なわれ、建築されたものです。たとえば、閲覧室をより多く作ることによって、各閲覧室の特色と機能を強化し、また開放的にしています。床にジュータンを敷き、雑音が出ないようにも配慮されています。また書庫とカウンターを立体的に配置し、機械化することによって、貸出し業務の迅速さが目指されています、等々。

このように、図書館の外観や態様は大きく変化していますが、教育研究の機関としての図書館が必要な資料を収集し、整理し、提供する役割、機能に変わりはないことは申すまでもありません。

さて投稿者のご指摘のように、狭い白山キャンパスの中では図書館しか、アカデミックな交流の場がないことも事実で、本図書館が、単に勉学の場として利用される、図書館本来の機能と、それを通じて、友人との交流の場として利用される側面があると思われれます。そして図書館が、ただ単に勉学の場のみならず時には学友とのコミュニケーションの場にもなれば、図書館の果す役割は一層広範囲なものになると考えます。

しかし大学図書館は一般的にいて、投稿者の指摘される通り、自由な雰囲気の中で勉学できる施設、設備が設置されていないか、もしくは設置されていても貧弱な設備であることも事実です。本館も斬新な側面をもってはいるものの、学習するための図書館に限定された構造の点では例外ではありません。この主要な要因は、建設用地の狭隘さ、建築予算の有限性、また図書館における閲覧室機能の認識のちかたなどから、現在のこの施設設備になったものと思われれます。

しかし時代の変遷とともに、利用者に対する図書館の役割、機能は、その時代の要求に対応することが図書館行政上最も必須の条件であると考えています。本館もその建設当初は、大学図書館界でもきわめてユニークな近代図書館と評されたものですが、まだオープンして5年もたたないのにはやその機能が充分果せない側面も出てきていることも偽りのない事実です。それは図書館に対する利用者の needs が変化していることも、主要な原因の一つになっています。投稿者のご意見もこの方向を目指しているものと考えます。図書館としても、この needs に対して何らかの対応策を具体的に検討しなければならない時期に来ていると思われれますし、これら解決する方法はすでにあみ出されています。その一つにブラウジング・ルーム Browsing, room という閲覧方法があり

ます。

このシステムは、アメリカの大学図書館または公共図書館において、発展してきたものです。このシステムを簡単に紹介しますと、開架室または閲覧室に、あるいは館内に独立したものとして自由読書室を設け、そこには主として小説、劇曲、娯楽、趣味的な傾向の図書を設置し、しかも環境的には、開放的、魅力的、談話室的な雰囲気をもたせ、利用者の要望を満すことを目的にしたものです。この閲覧システムはアメリカなどの大学図書館、公共図書館では、かなり定着しているとともに、充分その機能を果しているといわれていますが、我国の図書館においては、2・3の大学や公共図書館で実施しているにすぎず、この点はまだ、未開発の閲覧方式とされております。

投稿者お2人の要望ないし期待は、まさに上にのべた、ブラウジング・ルーム（自由読書室）で満足されるのではないかと思います。現在の第3閲覧室を、ブラウジング・ルーム化できないかということになります。これは私どもとしても、十分検討する価値のある貴重な提案であると評価しています。しかしますますこれを実施することはこの図書館の設計意図からして、多くの困難な問題があります。

いま白山キャンパスの狭隘性を解決する努力が全学的におこなわれようとしています。この問題もその一環に組入れて検討すれば、決して実現性のないプランではないと信じています。

（投稿Ⅲ）

「視聴覚室に望む」

経営学部商学科4年

奥村政信

私は、我大学の視聴覚室を利用し始めて、2年余りとなります。最初の頃は、まだ此処もできて間も無かったので、資料は貧弱であったし、機器の使用整備もそして学生に対するアピールも悪く、私達にとっては、まだ利用しにくいものでした。しかし、あれ以来、視聴覚室は資料の充実や



機器の利用の改善、催し物・利用方法・利用環境にも非常な努力が加えられ、私達学生にとってかなり利用し易いものとなりました。これは、非常に驚くべき発展です。

では、これでもう充分満足できるのかということ、私は、まだかなりの課題があるように思います。それを具体的にあげますと、まずその一つとして、聴覚が主体として行なわれており、視覚に対するものの活動が充分でないということがいえます。又、音楽などのレコードにおいてその利用は、かなり特定のものばかりに限られているのが現状であって、その意味で今の購入方法では、無駄が多い、すなわち私達学生の程度位では、全く聞かれないものの購入が多すぎることなのです。このことは、視聴覚室の所蔵レコードのうちまだ全く聞かれていないものがいかに多くあるかを示しています。レコードなどは、本とは違い、高価であり、寿命も短いのでありますから、これからの資料選択においてこのことは、重要な問題だと思えます。

それから私達の利用をさらに高める為にも、視聴覚室自体がもっと積極的に資料をアピールしてもらいたいし、利用時間の延長や使用機器の向上もよく考えて改善していただけたらと思います。

これらを行なうには、係員を増したり、室全体を改良したりしなければならなく、現状では、かなり困難なことであるとは思いますが、我大学の視聴覚教育の発展の為にも、是非、行っていただきたいと思えます。

(係より)

視聴覚室では、これまでも、機会あるごとに、アンケートなどを通じて、利用者の要望を積極的にうかがってきました。今回、この紙上に掲載されたご意見も、担当者として、十分承知していますし、改善の努力を続けております。

結論的に申しますと、利用者の要望は、設備・備品費や資料費の増額や担当者の増員にかかわる事柄がほとんどで、相当長期の展望にたたないと解決できない感じがします。自画自賛で恐縮ですが、現在の条件下では、これ以上のことはできないとさえいえるほどのサービスを行っていると思っております。

蛇足ですが、視聴覚室は、本来、機能が多様で、これを調整するのはたいへん困難であることをもご理解下さい。(具体的には、レコードを聴くことと、テレビを観ることは、同一場所では共存できないし、授業のために大人数で利用することと、一人でポピュラー音楽を聴くこともしかりです)。以下、ここに寄せられたご意見について、具体的にお答えしておきます。

① 資料の収集について

音楽系コースのない「総合大学」の「図書館」に置かれた視聴覚室(しかもL・L教室は別室)の意味を生かしつつも利用者の要望に応じていかなければならないため、資料収集は、特に苦慮しているところです。

レコードに限っても宗教音楽関係(「宗教社会学」に関連して)、民俗学関係、芸能関係、文学関係など本学の開講科目と関係する資料の収集に努めているにもかかわらず、これらは、全くといっていいほど利用されず、もっぱら、音楽関係のレコードに利用が集中しています。音楽系のレコードについても、交響曲からロックまで、ジャンルが広範ですし、同じ曲でも、指揮者がどうの、演奏者がどうのと、全く手におえません。

学生会館内にレコード鑑賞室や憩いの場が設けられれば、当室の機能が、もっとはつきりしてくると思うのですが……。

② 開室時間、室のスペース、レコード・プレーヤーの増設、担当者の増員、etc.

これらについては、すでにのべた範囲でご理解下さい。

③ テレビの利用について

現状では、テレビ番組を放映できるのは、午前中しかありません。ビデオ・テープに録画できるのは、午前9時から午後5時までです(多少、物理的に無理をすれば、午後9時まで)。しかも、ビデオ・テープが高価な上(1時間用が約1万円)、「著作権法」上、長期保存はできません。

こういう悪条件下で、時々、「新日本紀行」「日本史探訪」「市民大学講座」「教養特集」(いずれもNHK)などを録画して、金曜日の正午から1時間にわたって、再生していますが、観る人は、平均5~6名程度(全くいない時もある)なのです。

(投稿Ⅳ)

応化 D 1

岡 崎 渉

私たちが図書館を利用していつも感じるのは、古い雑誌を急いでみたいときに、それが無い場合が多く、抄録誌をみても当を得た回答が得られず困ってしまうことです。工学部ができて日が浅いことも一因でしょうが、他大学の図書館へ複写依頼を出しても日数がかかり急場がしのげないのです。また、最近では、予算面から雑誌類の購入をやめてしまう場合もあると聞き残念でなりません。分館の閲覧室は、西側が大きく開いているためか、夏になると非常に蒸し暑くなり、また、書庫との温度差も大きく、調子が狂うこともあります。季節によって温度調節をする等ご一考願いたいと思います。分館に無い文献が短時間で入手でき、沢山の本に囲まれるなら申し分ないので

す。コスモスについてですが、私が編集担当なら、次のようにしてみたいと思うのです。まず、版式を活版からオフセットに変えて、表紙が引き立つようにします。〓網〓の部分の濃度が均一になりきれいになりますし、本文も見やすくなります。本学は、学部学科が多く、多岐にわたっていますので、図書館に関する話題を網羅することは、現行の頁数、発行回数から考えて不可能に近いことですし、白山と川越とでは、性格も異なり、互いに必要でない項目もあると見受けられます。そこで、8頁のうち半分を白山と川越との共通頁に、残りを白山の頁と川越の頁として、それぞれの話題を集めます。つまり、〓白山版(共通頁と白山4頁)〓と〓川越版(共通頁と川越4頁)〓の2種ができるわけです。また、割付も追い込み型をやめて、一つ原稿が次頁へかからないようにして、原稿の量もそれに合わせて依頼し、予め仕上りを予想して文字と空間の場合も考えておきます。文字量が不足する場合には、95~90%縮少し、字数を増すこともできます。日誌などは、記録として残しておけばよいのですから、活字を小さく(8P)して行間を詰め、他にスペースをまわすこともできます。白山と川越とで独立した頁ができるわけで繁雑さがいくらか解消できるでしょう

し、腕の奮いようもあると思います。配布は、川越なら、川越版を主に、白山版を従にすればよいわけですね。

コスモスを拝見していて上記のようなことを思いつきました。

(係より)

1 雑誌のバックについて

全部が初号より揃へば最良だが、現物のないものもあり又予算面からも、すぐの実現は困難です。又購入中断の雑誌は、化学系数学系で約30種になりますが、雑誌代の値上りに予算が伴わない為で、学科間の予算関係もあり遺憾ながらこうなっていました。

2 複写依頼について

雑誌の種類が年々増加してどこの図書館でも関係雑誌全部をとることができなくなり、相互協力によって他館へ複写依頼をするようになりました。公立機関は規則にしばられて日数がかかり、私立大学への依頼は1~2週間を要しますので、急ぎの場合は他大学図書館へ紹介状を発行します。

3 閲覧室の温度調節について

大閲覧室は冷房装置を入れるものとして設計されているので夏の暑さ、梅雨どきの不快さは格別です。毎年クーラーの設置を要求してきましたが未だ実現しません。今後も一層努力するつもりです。

4 コスモスに関して

種々のご指摘ありがとうございます。コスモスは、図書館の公報誌を意図とし、年4回を原則として発行しておりますが、何分、年間約310,000円。部数1万(昭和50年度)と決められた枠があり、版式・頁数なども思うにまかせません。また、編集委員も白山3名、川越1名という編成で、平常業務をかかえた上での仕事だけに、充分時間をかけた編集会議を持っていないのが現状です。従って、白山・川越に共通するような記事や、学生数の多い白山を主体としたような記事になっていることは否めません。いずれにしても、ご指摘を参考に、今後、より期待に添えるよう検討して行きたいと思っております。

投書箱から

貸出期間一週間をもう一週間、延長してほしい。

(係から)

現在行なっている貸出期間をもう一週間延長して欲しいとのご要望ですが、この種の投書は過去においては相当あり、その都度図書館としては、利用者の立場にたって慎重に検討をしてみました。確かに、投書にもあります通り、貸出期間が一週間では、時には短い場合もあろうかと思われます。そのような利用者の不便さを、充分勘案していろいろ改善を行なってきました。

その一つに、指定図書の貸出については最初は3日間でしたが、これを一週間に延長したこと。第二点として、図書の貸出期間一週間を利用者の必要から、再度貸出を申請された場合は、もう一週間の延長貸出を行なって利用者の便益をはかったこと。第三点として、自動複写機を図書館に設置し文献複写の促進を奨励し、図書の利用度を高めたこと。などは利用者の声を充分斟酌して改善を行なってきた点でもあります。ただ投書のように、貸出期間を一律に二週間に延長することは、現在の利用状況から判断して早急に実施できないと思われます。

図書は出来るかぎり多くの利用者に平等に利用してもらい性格があるからです。つまり図書の平等利用性をお互いに尊重しなければならないという意味です。一人の利用者が、同じ図書を長期間、占有しているということは、少なくとも他の人の利用を損なう恐れが、しばしばあります。このような理由と利用状況から、今の段階では貸出期間は一週間の現状維持で運用していきたいと思ひます。しかし、先に申しあげた通り、どうしても必要な利用者はカウンターに来てその旨を申し出て下さい。



雑誌請求番号の目録を索引のところに置いて下さい。

国文4年

(係より)

ご要望の主旨は、当館所蔵の雑誌目録(辞書体目録から雑誌目録だけを分割したものか、冊子の雑誌総合目録)を参考室の索引類のところに設置してほしいということと推察します。

あなたの云われる通り雑誌目録を辞書体目録から分割して別個の雑誌目録体系にすれば便利で利用しやすくなるのは事実です。また、この件に関して雑誌係でも話し合っていますが、今すぐ辞書体目録から雑誌目録を分割することは労力と時間がかかります。しかしそうしてこの目録は辞書のように使えるという利点もあります。また、今まで維持してきた辞書体目録体系に関することでもあり、十分にこの目録体系を検討してからでないと将来に禍根を残しかねないものを含んでおり、早急に分割はできません。当館所蔵の雑誌総合目録はまだ作成していません。現在あるのは継続購入雑誌目録です。この目録の配列は外国雑誌、国内雑誌ともにローマ字のアルファベット(ヘボン式)順になっており、開架雑誌室と閲覧用目録コーナーに置いてあります。索引で検索された目的雑誌が当館で所蔵しているか否かを調査するには最初継続購入雑誌目録を見て確認してください。

もし記載されていなかったならば、寄贈されている(大学関係、一般系系団体、図書館関係、政府刊行物)雑誌類は分類整理されると、目録カードは辞書体目録に繰り込んでしまいますから辞書体目録で確認できます。しかし、寄贈されている未分類雑誌については閲覧用目録が完備していないので所蔵の有無を確認できません。参考室の雑誌係に遠慮なく尋ねて下さい。すぐ調査いたします。雑誌総合目録作成していない現在では、多少不便かもしれませんが上記のような方法しかありません。ご了承下さい。

雑誌室の今後の計画として、近い将来雑誌名カード目録を参考室の一角に設置することと、冊子の雑誌総合目録(和・洋)を作成して、利用者の便宜をはかりたいと考えています。

四君の寄稿に沿っての随感

図書館長 後藤辰男

コスモス通巻31号を「利用者の声」特集号にあてたのは、利用者の皆さんの批判、意見、提言をいただくことにより、とかくおち入り易い運営面での独善や不用意を極力避けたいとの願望からであったが、投書数四というのは編集側としては期待外れの数であった。しかし、このことは一面コスモスがまだまだ学内誌として十分に機能を発揮していないことを示してもおり、小田君（国文三年）の結びの言葉にもあるように、今後更なるPR活動に奮励せよとの無言の叱正であると考えるべきであろう。このような状態にも拘らず稿を寄せて下さった四君に対しまず改めて館を代表して深く感謝する次第である。

新図書館が発足して今年でまだ五年目に過ぎないが、そろそろ狭隘を心配しなければならなくなっている。これは利用者数が次第に増加の傾向を強めてきていること、また蔵書数が急増していることの結果であり、このこと自体ははなはだ喜ばしいことであるが、他方閲覧面での不自由、整理面での不備を呼び寄せており、今後一層の施設充実および態勢整備のための努力が要請されて

いる。

それらの一つとしてJ君が提案している談話室のごときも事情が許されるなら是非実現したい性質のものである。なぜなら図書館利用時間が増大するにつれて図書館自体の居住性への要求は自然と高まるはずのものだからである。工学部分館閲覧室の温度調節を求める岡崎君（応化一年）の声を贅沢なものとして斥ける精神主義はもはや時代錯誤といえよう。談話室に関して言えばすでにこの種の部屋を備えている図書館もあり、その高雅なサロンの雰囲気はかつて羨ましく見聞された。

視聴覚室についてはあるが奥村君（経営四年）も館側のPR不足を衝いておられるがこれも又まことに耳が痛い。が同時に大々的なPR活動を、思わず自己規制しがちな態勢が館側になきにしてもあらずと認めざるを得ないのである。というのは先にも触れたように、白山台の図書館は比較的に誇れる新装備を備えているにもかかわらず、学生数との関係では決して規模的には十分ではないからである。今後の利用者数の増大、要求の多様化は必然的に予測されるものであり、その先取りの準備のないとき図書館機能は枯死状態におち入るということを強く心に銘記しておかなくてはなるまい。

春季閲覧業務取扱についてのお知らせ

先般、公示いたしました標記の件、すなわち2月16日より3月4日まで閉館し、さらに、3月5日より新学期授業開始日までの期間、出納業務の中止及び3階各閲覧室の午前9時から午後5時までの利用に限定いたしましたのは、およそつぎの理由によります。

2月18日から3月4日までの閉館は、この期間に入学試験がほぼ1日おきに実施され、図書館職員も入試期間出向をよぎなくされることによります。

また、3月5日より新学期授業開始日までの期間の限定開館は、主として開架図書ならびに参考図書約5万冊の点検業務を実施するためです。

この点検業務とは、蔵書と書架目録を照合して、図書1冊1冊の所在の状況を明確にすることで、会計上の棚卸しに相当する仕事です。その目

的は蔵書の管理状態を明らかにし、蔵書更新、蔵書構成の基準維持に対して基礎データを得るもので、図書館利用者に対する十分な閲覧サービスをする上でどうしても必要なものです。過去の経験から、この業務の遂行には関係職員総がかりで取組んで約1カ月の日数を要しています。この点検業務および事後処理業務はかなり長期間に亘りますが、これを怠りますと、継続的な利用体制を維持することが出来なくなり、図書館の機能がマヒするといっても過言ではありません。

この作業方法には、まだ検討の余地がありそうで、この期間を短縮することはできると思いますが、しかし新学期に向けての準備業務はこの外にまだまだたくさんあり、現在の私どもの能力では、この期間の限定開館はやむを得ないものと考えています。ここ期間の利用者の不便は新学期のサービス向上で応えるべく努力していますので、ご理解をいただきたいと思えます。

東洋大学図書館業務報告 (昭和49年度学長報告より抜粋)

〔I〕 白 山

1. 学部別・図書館図書費・予算及び決算

	予 算	決 算	備 考
文 学 部	5,869,000	5,865,906	含大学院
経 済 学 部	2,800,000	2,802,340	
経 営 学 部	3,682,000	3,680,985	含大学院
法 学 部	3,682,000	3,181,406	"
社 会 学 部	3,772,000	3,557,451	"
教 養 課 程	2,800,000	2,796,088	
短 期 大 学	2,400,000	2,621,700	
各 学 部 共 通	5,700,000	5,401,615	
図 書 館	7,000,000	5,000,171	
継 続 双 書	6,500,000	7,186,442	
学 生 希 望	1,500,000	1,502,641	
二 次 資 料	2,300,000	3,089,859	
指 定 書	1,200,000	1,667,725	
逐 次 刊 行 物	7,500,000	8,438,513	
視 聴 覚	800,000	866,280	
予 備 費	1,995,000	2,016,489	
助 成 金	7,000,000	6,661,800	
大学院設置準備	10,000,000	6,139,737	〔経済・公法 中哲・図書館学〕
合 計	76,500,000	72,477,148	

2. 図書資料・受入と整理

	年間受入冊数	年間整理冊数
和 書	7,996	8,224
洋 書	5,744	6,526
合 計	13,740	14,750

3. 雑誌・新聞・所蔵数

	雑 誌 (種)		新 聞 (種)	
購 入	和	431	和	11
	洋	489	洋	13
寄贈交換	和	1,323	和	19
	洋	50	洋	0
合 計	2,293		53	

4. 館内閲覧統計

月	人・冊		開 架 図 書		閉 架 図 書		合 計	
	冊 数	利用者数	冊 数	利用者数	冊 数	利用者数	冊 数	利用者数
4	317	239	257	130	574	361		
5	1,013	743	703	399	1,716	1,114		
6	1,199	851	578	341	1,777	1,163		
7	979	615	698	324	1,677	912		
8	594	327	622	280	1,216	548		
9	1,182	760	841	453	2,023	1,148		
10	2,103	1,344	1,413	751	3,516	1,918		
11	1,462	930	1,029	547	2,491	1,420		
12	1,786	1,096	1,009	503	2,795	1,520		
1	5,821	3,585	1,054	624	6,875	4,081		
2	1,178	687	192	108	1,370	773		
3	715	493	108	65	823	548		
年 間 合 計	18,349	11,670	8,504	4,525	26,853	15,506		

5. 館外貸出統計

月	開架図書		指定図書		閉架図書		合計	
	冊数	利用者数	冊数	利用者数	冊数	利用者数	冊数	利用者数
4	1,542	1,220	117	108	245	464	1,904	1,792
5	3,737	3,077	454	387	1,053	812	5,244	4,276
6	3,679	2,991	661	561	814	655	5,154	4,207
7	2,528	1,518	347	275	913	607	3,788	2,400
8	1,611	1,067	204	164	826	484	2,641	1,715
9	2,416	1,671	318	263	583	406	3,317	2,340
10	4,997	3,815	524	470	1,289	947	6,810	5,232
11	4,150	2,942	505	437	1,015	710	5,670	4,089
12	4,155	3,148	709	611	973	678	5,837	4,437
1	2,524	1,602	408	351	499	283	3,431	2,236
2	ロックアウトの為,		貸出中止					
3								
合計	31,339	23,051	4,247	3,627	8,210	6,046	43,796	32,724

6. 参考業務統計

質問件数		5,506	利用者数		4,925
内容	書誌作成	0	内容	学生	4,700
	文献調査	1,793		教員	93
	文献所在調査	330		職員	95
	事実調査	3,301		学外者	37
	書誌的事項その他	82			
	0				

7. 蔵書構成

		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学
冊数	和	23,567	21,242	21,374	32,343	5,686	4,907	5,973	3,345	4,407	15,814
	洋	3,701	7,602	4,452	29,891	2,893	2,906	3,638	612	2,596	8,446
合計		27,268	28,844	25,826	62,234	8,579	7,813	9,611	3,957	7,003	24,260

8. 視聴覚室

	受入総点数	49年受入数
レコード	734	404
テープ	506	132
スライド	29	0

9. 視聴覚室利用状況

利用者数

		5月	6月	7月	9・10月	11月	12月	1月	合計
コンサート	開室日数	19	18	13	27	15	15	13	120
	入室数	353	300	105	426	135	188	101	1,608
	1日平均	18.6	16.7	8.1	15.8	9.0	12.5	7.8	13.4
個人	開室日数	19	18	15	27	15	15 (3)	12	121 (3)
	1日平均	13.8	14.6	9.7	12.9	11.6	10.5 (9.7)	6.5	11.8 (9.7)
利用	持込	45	44	21	49	2	5	0	166
	音楽系	125	141	96	217	126	128 (25)	60	893 (25)
	語学系	21	13	13	29	27	18 (1)	1	122 (1)
	F M 放送	35	26	12	32	12	2	9	128
	ノン・ミュージック	11	8	4	16	7	4 (1)	8	58 (1)
	不明	26	29	0	5	0	0 (2)	0	60 (2)
	計	263	261	146	348	174	157 (29)	78	1,427 (29)

注：1. 10月以降はレコードの持込をしない

2. ()内は夜間(18～20時)開室時

3. コンサート入室者数は、出入がはげしい為概数(12～13時：月～金)

4. 個人利用は、4台のレコードプレイヤーに集中(14～16時：月～金)

10. 出版物

1. 東洋大学図書館蔵書目録 第二巻 和漢書編：昭和49年8月発行
2. // 第三巻 和漢書編：昭和49年12月発行
3. 図書館利用の乗 49年度
4. 継続購入雑誌目録 49年度
5. 指定図書目録 49年度
6. 図書館ニュース ΚΟΣΜΟΣ Vol. 9 no. 1—3

〔Ⅱ〕 工 学 部

1. 予算及び決算

当 初 予 算	13,000,000円
決 算	13,929,127円

2. 年間図書受入冊数

	和 書	洋 書	合 計
図 書 費	786	210	996
実 験 実 習 費	515	255	770
電 算 室	43	66	109
寄 贈	56	7	63
帳 外	59	18	77
製 本 雑 誌	467	729	1,196
合 計	1,926	1,285	3,211

3. 雑誌年間受入数（種）

		和	洋	合 計
購 入	図 書 費	248	337	585
	研 究 費	8	18	26
寄 贈		267	0	267
合 計		523	355	878

4. 年間貸出冊数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
学 生	562	1,696	1,373	1,226	22	929	1,467	1,147	1,249	815	1,060	25	11,571
教 職 員	339	369	193	135	11	85	82	153	73	96	116	75	1,837

5. 年間学科別貸出冊数（学生）

機 械	電 気	応・化	土 木	建 築	大学院	白 山	合 計
2,265	4,894	1,621	1,696	748	335	12	11,571

6. 土曜日開館時間延長の際の平均閲覧者数

時 間	13：00	13：30	14：00	14：30	15：00
人 数	37.3	27.9	22.9	18.3	9.9

日誌 (50年9月～51年2月)

- 9日26日 白山連絡会
- 9月30日～10月4日 近世資料取扱講習会 (於県立金沢郷土資料館, 丹野参加)
- 10月1日 工学部分館事務課設置
高橋誉文整理課長, 副館長に就任
- 8日 図書選択委員会 学部共通図書の選定, 新規購入雑誌の選定などについて審議
- 15日 臨時白山連絡会 滞貨図書問題の解決を目指して審議
関東学院大学図書館・森田氏外3名の方見学のため来館
- 20日 父兄会神奈川支部より, 39名の父兄見学のため来館
- 20日～24日 近世資料取扱講習会 (於国立教育会館, 丸山参加)
- 22日～24日 全国図書館大会 (於松江, 館長外3名参加)
- 27日 昭島市民図書館より館長外2名の方見学のため来館
- 29日 図書館運営委員会 昭和50年度図書費補正ならびに昭和51年度図書館予算の要求方針などについて審議
白山連絡会
- 11月4日～7日 文部省大学図書館職員講習会 (於東京大学図書館, 五十嵐参加)
- 14日 視聴覚室企画・第4回映写会 (於第3閲覧室, 上映作品「二十四の瞳」)
- 19日 白山連絡会
- 21日 私大図協「逐刊分科会」
- 22日 本学名誉教授竜山義亮先生より, 「教育学術界」など函刊資料4点の寄贈を受ける
- 12月6日 父兄会千葉県支部より20名の父兄, 見学のため来館
- 10日 図書館運営委員会 昭和50年図書費補正, 昭和51年度図書館予算などについて審議
視聴覚室企画・第5回映写会 (於第3閲覧室, 上映作品「野ばら」・「動くスキーテキスト」)
- 12日 白山連絡会
- 13日 私大図協「書誌学分科会」
- 17日 図書選択委員会 工学部分館廃棄図書, 本館未登録資料の取扱い, および新規購入雑誌などについて審議
- 23日 臨時白山連絡会 滞貨図書問題審議
- 31日 岩崎三知代 (白山勤務) 退職
- 1月13日 私大図協「閲覧分科会」
- 14日～17日 私大協「館長並びに主務担当者研修会」 (於館山, 池田・鹿島参加)
- 23日 白山連絡会
国会カード, 昭和51年度より導入, 総務係に設置
- 24日 「東洋大学図書館学講座史」完成
- 28日 図書館専攻専任教員と図書館と懇談会
- 2月7日 大学院経済学専攻, 公法学専攻設置申請にともなう実地視察を, 本館も受ける。
- 16日 図書館運営委員会 館長選任の制度問題などについて審議
白山連絡会
「哲学堂文庫」, 図書学専攻の学生諸君の協力を得て整理開始, 3月中旬までに完了の予定

編集後記

暦の上では春とはいへど, 冷たい風がまだまだ続いているせいかどうか, 気ばかりあせってしまい編集が遅れてしまった事をお詫びいたします。

今号は「特集・図書館に望む」と題して, はりきって原稿を募集したのですが, 期待していたほど集まらず, 割りつけに四苦八苦した次第です。原稿をお寄せ下さいました皆様にお礼を申し上げます。

欲を言えば, もう少し「図書館」・「コスモス」について多数の方から建設的な意見が聞きたかったと思います。又特集についての感想・ご意見などありましたら, 委員の方へ何でもお寄せ下されば幸いです。